

## 1 学習に取り組んでいる主な分野

<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input checked="" type="checkbox"/> 平和	<input checked="" type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他（ ）	

## 2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「夢や目標に向かって、一生懸命努力する、人間性豊かな倉永っ子の育成」を学校教育目標としている。ESDを、「人格の発達や、思考力、判断力、責任感等の人間性をはぐくむとともに、自他を大切にする素晴らしさや社会との関係性を認識し、「つながり」「かかわり」を尊重して人権に対する意識を高める活動」として捉え、実践を通して体系的な思考力、代替案の思考力、コミュニケーション能力などの育成を目標としている。

具体的には、環境教育や福祉教育、防災教育等を行うことで、地域住民とのつながりを深めたり、ふるさとへの愛着を高めたりする学習を行った。



## 3 特徴的な活動事例の紹介

### ○ 地域の高齢者との関わりを考える福祉教育

本校校区は、市内小学校区でも高齢者比率が比較的高く複数の高齢者福祉施設がある。6年生では、1学期の総合的な学習において、地域の高齢者とのかかわりを通じた福祉教育を行っている。

具体的には、課題設定の段階で、高齢者が感じている生活上の不便さ等について、家族との経験や、高齢者体験教材を用いた体験、図書資料やインターネットでの調べ学習等を行った。その中で、生活上の不便さはもちろんのこと、孤独感を感じている高齢者が多いことを学んだ。そこから、地域に住む高齢者のために、自分たちが出来



ることを考え、「お年寄りの方の心が温まるような交流会をしよう」という課題を設定し、校区にある高齢者福祉施設を訪問することにした。課題の解決に向けて、体が思うように動かせない高齢者でも楽しめるような内容はどんなものがあるか、介護に携わる人々が高齢者と接するとき気を付けていることは何かなどを調べ、試しの活動などを行いながら、内容を精選していった。昔のことを思い出してもらえるようにとの思いをこめて、利用者が子どものころや若い頃に流行した物や、ふるさとである校区に関することをクイズにして出題したり、多くの方が知っている歌がいいとの思いから、「翼をください」を歌ったりと、高齢者との関わりを意識した内容となった。また、活動の一環として、本校敷地内にあるコミュニティセンターで毎月行われている高齢者向けのサロンで、6年生から高齢者へ絵本の読み聞かせを行った。

この福祉教育の取組は、SDGs 3「すべての人に、健康と福祉を」に通ずるものである。

### ○ 地域の災害にそなえる防災・減災教育

5年生では、地域で起こった災害への備えについての学習を行った。

具体的には、課題設定の場面で市の防災危機管理室の方に市内で起こりやすい災害について話していただき、校区で起こりやすい風水害やいつ起こるかわからない地震に焦点を絞って自分たちにできる対策を考え、発信することを課題とした。課題の解決に向けて、福岡市防災センターで風水害や地震の体験を行ったり、図書資料等で調べたりした。また、非常用持ち出し袋について、自分たちで家族構成や条件等を設定し、中身を考えて。それを、防災危機管理室の方に評価していただき、中身を再考して発信する活動を行った。

また、本校では地域と合同で全校を対象にした防災・減災学習も行っており、これらはSDGs11「住み続けられるまちづくり」に通ずるものである。



## 3 今後の活動計画

令和6年度は、ESDにおいて、体験活動や探究活動をさらに充実させていきたい。そのために、

1. ESDとして行う学習内容（主に総合的な学習の時間のカリキュラム）の見直しを行い、他教科との関連性や学年ごとの系統性をさらに明確にする。
2. 体験活動や協働学習を充実させ、子どもたちの活動に広がりを持たせたり、他教科でも生かしたりすることが出来るようにする。
3. 図書館教育との関連をさらに明確にし、子どもたちの課題解決能力を高めることができるようにする。